

学 校 教 育 目 標	あかるく（思いやりがあり、前向きにとらえる子 ）かしこく（進んで学習し、よく考えて正しく判断できる子） たくましく（元気に活動し、根気よくがんばる子）
目 指 す 学 校 像	○「自ら学び、考え、主体性を持って行動する力」の向上が図れる学校 ○望ましい人間関係が身に付けられる学校 ○地域に根ざした信頼される学校 ○「安心・安全」で教育環境が整備された学校 ○美しい歌声が響く学校

重 点 目 標	1 他社との関わりと大切にし、学び続ける児童の育成～個別最適・協働的な学びの一体的な充実～ 2 生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実といじめや不登校等への迅速で組織的な体制づくりの実現 3 学校運営協議会とSSNを核とする地域と共にあるコミュニティ・スクールの推進 4 安全で整備された教育環境の提供と文書・データ・財務が適切に管理された学校づくりの実現。 5 教職員が意欲的にキャリアアップを図り、業務改善を進めることで意欲をもって健康的に働ける職場づくりの実現
---------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の各平均正答率は、全国との比較ではわずかに上回り、さいたま市との比較では下回っている状況である。 <課題> ・児童にとって、自分の考えを表現する機会が十分ではない。 ・ICT 機器を日常的に活用できるようになったことで、正しい情報の扱いについて指導する必要性が高まっている。	・個別最適で協働的な学びの授業実践を深めるための研修体制の充実	○個別最適で協働的な学びの推進に向け、研修主任を中心に教員とビジョン等を共有し、教員個別の課題を立てて「自導」していく研修を実施する。 ○教職員の授業実践成果や公開授業について teams のチャンネルに掲載していく。	○学びの指標の「主体的な学び」の学校全体の平均値を昨年度よりも向上させることができたか。 (R6 3.31)					
		・授業等に活用できるデジタルツールの研究と情報モラル教育の充実	○オクリンプラス、canva の活用、新たなデジタルツールについて研究する。 ○情報モラル教育を推進するため、アプリ「エンサップ」の活用や教育研究所指導主事を招いての研修を実施する。	○市学習状況調査の「携帯電話等について家の人と約束したことを守っている」を 70%以上にすることができたか。(R6:63%)					
2	<現状> ○学校評価では、「学校生活が楽しい」と肯定的に回答した児童は93%だった。 ○30 日以上長期欠席児童や不登校の児童が増加している。 <課題> ○児童や保護者が抱える悩みや不安、家庭を取り巻く環境が多様化しており、一人ひとりの実態に応じた対応が必要である。 ○悩みを抱える児童が、いつでも信頼できる大人に相談できるという安心感を高めていく必要がある。	・児童一人ひとりの実態に応じた組織的で迅速に対応できる体制の構築	○いじめの早期対応と早期解決に向け、教職員研修等を通じて、いじめの認知や組織的対応について共通理解を図る。 ○各種アンケートや保護者面談等から得られた情報を基に、ケース会議を開き、多角的な視点で対応策を検討する。	○いじめについて共通理解を図り、早期対応と早期解決に向け、迅速で組織的対応を行うことができたか。 ○児童の課題について、ケース会議を開き、多角的な視点で対応策を検討することができたか。					
		・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、他の機関との連携強化	○市内教育相談室や児童相談所、区の支援課、フリースクール等と密な連携を図り児童の支援に当たる。 ○SCとSSWについて保護者等へ周知し、面談や担任と情報交換をするなど連携を強化し、児童の支援に当たる。	○SCとSSWの児童と保護者の面談件数を昨年度から増加することができたか。 ○他機関と情報を共有し連携しながら支援に当たることができたか。					
3	<現状> ○指扇中学校との学校運営協議会では「人との関わり合いを大切に子どもたち～郷土愛～」について充実した熟議が行われた。 <課題> ○児童数の急激な増加に伴い、地域や保護者、行政とも連携した見守りが必要である。 ○学校探検やチャレンジスクール等、地域の皆様による学校協力について「SSN」と関連付けられておらず、その活動内容もあり発信されていない。	・学校運営協議会とSSNを核とする地域と共にある学校の推進	○3 回の学校運営協議会の中で、児童が参加し充実した熟議ができる会議運営を実施する。 ○地域や各ボランティアによる学校協力について「SSN」と関連付け、その成果を学校だより等で地域に発信する。	○さいたま市学習状況調査「地域とのかかわり」の肯定的評価を昨年度から向上させることができたか。(R6 73%) ○地域や各ボランティアによる学校協力について「SSN」と関連付けて地域に発信することができたか。					
		・学校や児童の様子等の積極的な情報発信	○授業参観、学校行事等を公開するとともに、学校安心メール、スクリレ等、多様な機会、媒体で教育活動を発信する。 ○学校HPで「指北っ子の活動」を毎日更新し、児童の様子を積極的に公開する。	○学校評価の「学校の様子がよくわかる」の保護者の「そう思う」を50%にする。(R6:45%)					
4	<現状> ○昨年度より児童数が約140人増加した。 ○昨年度の仮設校舎の増築に続き、新たに給食室を増築する。 <課題> ○児童数の増加に伴い、今後さらに児童が安全に生活するための環境整備が必要である。 ○教材費等の保護者からの集金について、今年度新たに「スクペイ」によるキャッシュレス集金を開始する。	・安全な教育環境と情報セキュリティの整備	○安全な教育環境整備を進めるため、安全点検と迅速な修繕、情報セキュリティチェックを実施する。 ○「新給食室増築」について、安全に工事に向けた業者等との打合せを実施するとともに、工事の進捗状況等を保護者に発信する。	○学校評価「環境に対して適切に取り組んでいる」の保護者の「そう思う」を35%にする。(R6:31.2%) ○学校評価の「安全指導に努めている」の肯定的評価を90%以上とすることができたか。					
		・保護者からの適切な集金体制の構築	○新たに導入する「スクペイ」について、保護者に丁寧に説明し、適切な会計処理のための会計委員会を実施する。	○「スクペイ」について、保護者に丁寧に説明し、適切な会計処理を行うことができたか。					
5	<現状> ○教職員数が年々増加している。 ○個別最適で協働的な学習についての授業改善などに意欲的に取り組む教職員や業務改善に高い意識で向き合う教職員が多い。 <課題> ○経験の少ない教職員や若手教員が自信をもって児童と向き合い、授業を行うための支援体制の充実が課題である。 ○教職員の増加に伴い、業務内容を見直し、業務改善とペーパーレスを実践し、効率的な業務遂行が必要である。	・教職員のスキルアップ、キャリアアップに向けた支援	○教職員との当初面談等で、教職員のキャリア段階や目指す姿を共有し、具体的な目標設定を共に考えていく。 ○初任者研修、年次研修、学校課題研修を通して、教員同士が学び合える場の充実を図る。	○学校評価（教職員）の「働きやすい職場である」の「そう思う」を45%以上とすることができたか。 (R6:38.6%)					
		・業務改善を行い、教職員一人ひとりが働きやすい職場環境の醸成	○SSSP 業務改善ワーキンググループ校、文科省「生成AIパイロット校」として、ICTを活用し、教育委員会とも連携した業務改善を実践する。 ○働きやすい職場とストレスの軽減のため、教職員からの相談等に常に耳を傾け、教頭とともに丁寧な対応を行う。	○学校評価（教職員）の「業務改善」についての肯定的評価を90%にすることができたか。 ○笑顔にあふれ、お互いが助け合える職場環境にすることができたか。					

目指す学校像	○「自ら学び、考え、主体性を持って行動する力」の向上が図れる学校 ○望ましい人間関係が身に付けられる学校 ○地域に根ざした信頼される学校 ○「安心・安全」で教育環境が整備された学校 ○美しい歌声が響く学校
重点目標	1 「学びのポイント（じ・し・ゃ・く）に基づいた個別最適で協働的な学びの充実（学力向上） 2 生徒指導・教育相談・特別支援教育の充実と安心・安全な学校づくりの推進（安心・安全） 3 地域とともに児童の成長と安全を見守るコミュニティ・スクールの推進（地域） 4 誰もが働きやすく、一人ひとりが自信をもって力を発揮できる職場環境の醸成（教職員）

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和7年2月19日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の各平均正答率は、全国・市を下回っている状況である。 ○さいたま市学習状況調査では、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げていたりすることができていますか」の項目が、市を上回っている。 <課題> ○児童生徒のタブレット端末の活用状況では、高学年は使用頻度が高くなっているが、中学年や低学年はまだ低い状況である ○解答を記述する問題の無回答率が高い傾向にあった。自分の考えを表現することに苦手意識が見られる。	・ICTの効果的な活用した授業実践	○スクールダッシュボードの「おはようメーター」「学習アンケート」を活用し、タブレット利用の習慣化を図り、児童の実態を確に把握する。 ○オクリンク、teams、canva等のツールを活用しながら、主体的な学びにつなげていく。	①さいたま市学習状況調査において、「ICTを活用した学び」に係る項目について肯定的な回答が90%以上となったか。 ②児童生徒の端末活用状況(3～6年)の「ほぼ毎日」を50%以上となったか。	・スクールダッシュボードやオクリンクプラスやcanva等のツールに積極的に触れ、授業で活用することができた。 ①さいたま市学習状況調査の「ICTを活用した学び」に係る項目について肯定的な回答が90%にすることができた。 ②さいたま市学習状況調査において、授業でのICTの活用頻度「ほぼ毎日」を65%にすることができた。	A	・児童が、1年生からタブレット等を日常的に使用できる環境が整い、今後授業以外での活用機会も増えてくる中で、個人情報や著作権等の情報モラル教育の推進は喫緊の課題である。ICT活用を推進しながらも、情報モラル教育を同時並行で実践していく。	・ICT活用について、児童が意欲的に上手に使うことができていると感じた。 ・ICTの活用は社会や教育界の急激な変化の中で必要性が高まったものであるため、その効用と弊害を今後も注意深く見ていく必要がある。 ・情報モラルについては心配している。児童間で、情報に対する質や量の処理能力に差を感じている。家庭と連携しながら児童の実態に応じた対応が必要である。 ・ICTの活用が進む中での、児童同士、教師と児童の直接的な関わりが減らないような授業を行ってほしい。
		・個別最適化と協働的な学習に向けた研修体制の充実	○全国学力・学習状況調査について、自己採点を行うことで、児童自らの学習状況を把握し、目標を明確化して学習に臨めるようにする。 ○研修主任を中心として、teamsの研修チャットを活用しながら、教職員が「自走」して授業実践を行っていく。 ○リーディングDX推進校から講師を招き、授業公開・講義を実施する。	①学びの指標の「主体的な学び」についての学校全体の平均値を1回目よりも向上させることができたか。 ②さいたま市学習状況調査において「友達と話し合い、自分の考えを深め、広げる」について90%以上にすることができたか。	・個別最適で協働的な学習の推進に向けた教職員が「自走」する研修体制を構築することができた。 ①学びの指標の「主体的な学び」について、学校全体の2回目の平均値を1回目よりも向上させることができた。 ②さいたま市学習状況調査において「友達と話し合い、自分の考えを深め、広げる」について93%にすることができた。	A	・令和6年度は、教職員が、ICTを活用しながら個別最適で協働的な学習の授業にチャレンジした1年だった。令和7年度は、さらに実践を深め、児童の「学び方」だけではなく、各教科の「見方・考え方」を踏まえた授業実践を推進していく。	
2	<現状> ○学校評価では、「学校生活が楽しい」と肯定的に回答した児童は91%だった。 ○児童数が急増しており、令和4年度に続き、今年度秋から校舎の増築工事が行われる。 <課題> ○児童や保護者が抱える悩みや不安、家庭を取り巻く環境が多様化しており、一人ひとりの実態に応じた対応が必要である。 ○学校評価の「様々な相談に対して誠実に対応している」の項目で児童の肯定的評価は78%であった。いつでも相談できるという安心感を高めていく必要がある。	・児童一人ひとりの実態に応じた組織的で迅速に対応できる生徒指導・教育相談・特別支援体制の構築	○いじめの早期対応と早期解決に向け、教職員研修等を通じて、いじめの認知や組織的な対応について共通理解を図る。 ○各種アンケートや保護者面談等から得られた情報を基に、ケース会議等を開き、多角的な視点で対応策を検討する。	①学校評価「様々な相談に対して誠実に対応している」の児童の肯定的評価を83%とすることができたか。 ②組織的で迅速に対応が必要な場合に、ケース会議を開き、具体的な対応策について共有することができたか。	・児童一人ひとりの実態に応じ、組織的かつ迅速に対応する組織体制を構築することができた。 ①学校評価「様々な相談に対して誠実に対応している」の児童の肯定的評価は82.9%とほぼ達成することができた。 ②いじめ等、組織的で迅速に対応が必要な場合に、20回以上のケース会議を開き、具体的な対応策について共有することができた。	B	・児童一人ひとりの状況や取り巻く環境は複雑化し、対応についても多様化している。今年度の組織体制をベースに、さらにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、他機関との連携を密にした対応を充実していく。	・ケース会議を20回以上行うなど、子どもの変化に敏感に捉えながら、組織的な対応を行っていて素晴らしい。 ・家庭の状況がそれぞれ異なり、さらに、児童数が増加することで、特別な支援が必要な児童も増えてくることから、今後さらに組織的な支援が必要となるであろう。 ・Sola ルームの支援に地域の方がボランティアで入るなど、地域と学校がさらに連携できるための組織があるとよい。
		・安全な教育活動の整備と児童の安全意識の向上	○校舎増築に向け、教育委員会や担当者と密に連携して計画を進め、保護者や地域に工事状況を周知する。 ○一斉下校・自転車運転免許講習・避難訓練等を通して児童が安全について主体的に考え学ぶ機会を充実する。	①学校評価「環境に対して適切に取り組んでいる」の肯定的評価を90%にすることができたか。 ②学校評価の「安全指導に努めている」の肯定的評価を90%以上とすることができたか。	・登下校等、児童の安全意識の向上に向けた継続的な指導を行うとともに、校舎増築工事についても業者と連携しながら安全に進めることができた。 ①学校評価「環境に対して適切に取り組んでいる」の肯定的評価を92.3%にすることができた。 ②学校評価の「安全指導に努めている」の肯定的評価を96.9%にすることができた。	B	・今後さらに児童数の増加が予想されることから、PTAや地域と連携しながら安全教育を充実していく。 ・来年度から始まる新給食室の増設工事に向け、業者や行政と連携し、安全な工事計画を検討していく。	
3	<現状> ○指扇中学校と連携した学校運営協議会では「人との関わり合いを大切にする子どもたち～郷土愛～」について充実した熟議が行われた。 ○昨年度から学校運営協議会に子どもたちが参加し、学校での取組を伝えている。 <課題> ○児童数の急激な増加に伴い、西大宮駅方面からの登校する児童が一つの横断歩道を渡らなくてはならない状況であることから、地域や保護者、行政とも連携した対応が必要である。 ○学校・学年だより以外で、学校運営協議会の取組や学校の様子などを発信する機会が少ない。	・持続可能なコミュニティ・スクールの推進	○学校運営協議会において、「人との関わり合い」についての熟議を継続し、授業参観、児童との給食など、工夫しながら会議を運営する。 ○学校運営協議会だよりを作成し、保護者や地域に公開する。	①さいたま市学習状況調査「地域とのかかわり」の肯定的評価を80%以上とする。 ②学校運営協議会だよりを年3回保護者や地域に公開することができたか。	・学校運営協議会では、小中の状況に合わせた熟議の方法を工夫しながら運営することができた。 ①さいたま市学習状況調査「地域とのかかわり」の肯定的評価は73%であった。 ②学校運営協議会については、実施後に学校だよりの中で、保護者や地域に公開することができた。	B	・小学校や中学校の状況や課題に合った熟議の方法やテーマ設定を行いながら、学校・地域・家庭が密接にかかわりあえるコミュニティ・スクールを構築していく。	・子どもたちのあいさつが大変よく、地域の方とあいさつをかわすことは、安全や不審者対策にもつながる。 ・お囃子、獅子舞、感謝の会、合唱部の活動、アルディージャとの活動など、地域と学校がよい関係を築いている。 ・HPの「指北っ子の活動」は児童の様子がよくわかる。 ・安全指導に当たるボランティアが高齢化していることから、学校と地域のSSNが活性化するような仕組みが必要である。
		・学校や児童の様子等の積極的な情報発信	○授業参観、学校行事等の公開や学校安心メール、スクリレ等、多様な機会、媒体で「目指す学校像」「目指す児童像」や教育活動を発信し、共通理解を深める。 ○学校HPで「指北っ子の活動」ブログを新たに立ち上げ、児童の様子を積極的に公開する。 ○指扇まつりなどの地域行事で合唱部が歌を披露する。	①学校評価「学校の様子がよくわかる」の肯定的評価を90%にすることができたか。 ②児童や教職員の様子を、学校HPのブログ等で保護者や地域に公開することができたか。	・今年度からデジタル配信「スクリレ」を導入し、学校だより等を配信した。また、学校HPに「指北っ子の活動」を掲載し、毎日更新することができた。 ①学校評価「学校の様子がよくわかる」の肯定的評価を94.7%にすることができた。 ②学校HPに新たに立ち上げた「指北っ子の様子」は2月17日現在、約27,000アクセスとなっている。	B	・学校HPや学校安心メール、スクリレ配信、授業参観・懇談会、学校行事等を中心に、引き続き、学校や児童の様子を保護者や地域に発信していく。 ・地域と学校との関わりについてのよりよい情報発信について、地域の皆様と連携しながら検討していく。	
4	<現状> ○昨年度、ICTを活用した個別最適で協働的な学びの授業実践の豊富なリーディングDX推進校に、数名の教職員が視察に出るなど、教職員が授業改善に意欲的である。 ○教職員が増加したことで、より働きやすい職場環境が必要である。 <課題> ○経験の少ない教職員や若手教員が自信をもって児童と向き合い、授業を行うための支援体制の充実が課題である。 ○教職員の増加に伴い、業務内容を見直し、業務改善とペーパーレスを実践し、効率的な業務遂行が必要である。	・教職員一人ひとりがスキルアップを図り、自信をもって能力を発揮するための教職員研修の推進と職場環境の醸成	○授業観察を計画的に行い、年次や経験等に応じ「学びのポイント『じ・し・ゃ・く』」「キャリアnavi」を基に指導助言を行う。 ○初任者研修、年次研修、学校課題研修、指導訪問等を活用して、教員同士が学び合う場の充実を図る。 ○業務を見直し、教職員からのアイデアを取り入れた業務改善を実施する。 ○働きやすい職場環境に向け、教職員からの相談等に常に耳を傾け、丁寧な対応を行っていく。	①学校評価（教職員）の「業務改善」についての肯定的な評価を85%にすることができたか。 ②学校評価（教職員）の「働きやすい職場である」の肯定的評価を80%以上とすることができたか。 ③ペーパーレスを推進し、紙代を昨年度から5%削減することができたか。 ④働きやすい職場環境に向け、教職員からの相談等に常に耳を傾け、丁寧な対応を行うことができたか。	・教職員一人ひとりが、スキルアップし合い、自信をもって業務にあたるような教職員研修と職場環境を醸成することができた。 ①学校評価（教職員）の「業務改善」についての肯定的な評価を90.9%にすることができた。 ②学校評価（教職員）の「働きやすい職場である」の肯定的評価を90.9%にすることができた。 ③ペーパーレスを推進し、紙代を昨年度から15%削減することができた。 ④働きやすい職場環境に向け、教職員からの相談等に常に耳を傾け、丁寧な対応を行うことができた。	A	・令和7年度は、4学級増に伴い、教職員数も増加する。その中でも、経験の少ない教職員に対する指導力向上と心理的なケアが課題となる。管理職やミドルリーダーによる指導力向上研修とともに、皆が支え合えるより働きやすい職場環境を整えていく。 ・保護者の負担軽減と教職員の業務改善を目的に、これまでの手集金から、デジタル集金「スクベイ」へと変更する。保護者と連携をとりながら適切な運用を実施していく。	・教職員が非常に熱心に業務や研修に取り組んでいるのがよく分かる。 ・スクリレやスクベイなどの業務改善に取り組み、15%の紙代の削減につなげたのは素晴らしい成果である。 ・子どもたちの悩みは教員の皆さんが丁寧に聞いてくれているが、教職員の悩みを管理職はもちろん、皆さんで話を聞き合い解決できるような、働きやすい職場であってほしい。